

井口ぱとろーる隊（静岡県）

活動地域

静岡県島田市井口ぱとろーる隊の活動を発表致します。
よろしくお願いいたします。

島田市は静岡県の静岡市と浜松市のほぼ中間にあり、私たちの活動地域は大井川の下流域に広がる初倉地域です。お茶の生産で全国的にも有名な牧ノ原台地など、温暖な気候と豊かな自然に恵まれている所であります。

初倉地区は旧来より、お茶やレタス、イチゴといった農業の盛んな地域です。東名高速道路の吉田インターチェンジ、その他、近年、富士山静岡空港が整備されて、交通の要所として企業や商店が進出してきている地域です。この地区には10の自治会がございますが、私たちの井口自治会が2番目に大きな自治会となっています。最近の井口自治会は575世帯で構成され、勤め人が多くなり、次いで、農業従事者が多い地域でございます。井口自治会の中央部には県道34号線島田吉田線が通り、郊外にお宮さん、小学校、中学校があります。



団体の概要

井口ぱとろーる隊の結成の経緯をお知らせします。企業や商店、一般住宅が増え、地域が発展するに伴い、広域犯罪、空き巣、車上ねらい、自販機荒らし、不審者の出没などの犯罪が目立つようになりました。地区を挙げて、犯罪に目を光らせるとともに、児童、生徒、高齢者に声掛けを行おうと、ボランティア組織結成の話が持ち上がり、地区住民有志が集まりました。こうして平成17年7月1日、井口ぱとろーる隊が結成されました。

今年3月末現在、隊員は46名、男性が27名、女性が19名です。年齢は40～70代、職業は会社員、自営業、定年退職者となっています。青パト車両として、個人車両11台を登録しています。広報活動ができるように、平成22年9月に道路使用許可をいただいた青色回転灯装備車両もあります。

井口ぱとろーる隊の概要 ① 結成の経緯

企業や商店、一般住宅が進出して地域が発展するに伴い、そこに広域犯罪、空き巣、車上狙い、自販機荒らし、不審者の出没などの犯罪が目立つようになった。

地区を挙げて犯罪に目を光らせるとともに、児童、生徒、高齢者に「声かけ」を行おうとボランティア組織結成の話が持ち上がり、地区住民有志が集まり。

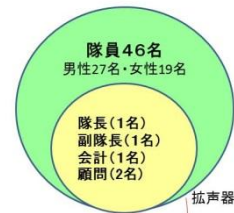
平成17年7月1日『井口ぱとろーる隊』を結成

発足して7年間の実績を挙げて、現在では、約50名の隊員で活動を継続している。

② 井口ぱとろーる隊の構成（H25.3末現在）

- ★ 年齢 40～70歳代
- ★ 職業 会社員・自営業・定年退職者

- ★ 青色回転灯装備車両 11台登録（個人車両提供）
- ★ 拡声器付青色回転灯車両で広報活動ができるよう道路使用許可済み <H22.9から>



井口ぱとろーる隊は、「目配り・気配り・心配り」をモットーに、明るく住みよいまちづくりに向けた活動を行っています。自発的に集まったボランティア精神旺盛な住民ばかり、代償を求めず、都合のつく時間で活動しています。制服、制帽、腕章、保険料、使用車両の燃料費等、全ての経費を自己負担で活動しています。毎週、夜間パトロールも実施しております。夜間パトロールは会員を6班に分けて、1班当たり7、8名、52週を活動週としています。不審事象が発生した場合、速やかに巡視活動を強化できる連絡体制を取っています。

④井口ぱとろーる隊の特色

モットーは「目配り、気配り、心配り」！！

- 1 地域の小中学校、警察署、交番、自治会等関係個所と密接な連携をとって明るく住みよいまちづくりに向けた活動をしています。
- 2 活動の趣旨に賛同したボランティア精神旺盛な住民で自発的に構成され、何の代償も求めない自分の都合つく時間で活動しています。
- 3 小、中、高生の登・下校時の交通安全指導と挨拶運動をしています。
- 4 隊員は、制服、帽子、腕章、保険料等(使用車両及びその燃料代)全ての経費を自己負担で活動しています。
- 5 毎週夜間パトロールを実施(青パト11台)しています。

活動の概要

活動内容

- | | | |
|------------------------|-----------------------------------|--------------------|
| ①
小中学校・保育園と連携した活動 | ②
警察署生活安全課、交通課・市役所市民安心課と連携した活動 | ③
自治会事業活動に参加・協力 |
| ④
独居高齢者世帯への声掛け・安全確認 | ⑤
リサイクル運動の実施 | ⑥
隊員研修の実施 |

活動内容は、「小中学校、保育園と連携した活動」「警察署生活安全課、交通課、市役所市民安心課と連携した活動」「自治会事業活動に参加協力」「高齢者宅への声掛け、安全確認」「リサイクル運動」「隊員研修」です。

写真は朝の交通安全活動の状況です。毎日、小中学校、児童、生徒の登下校の時間帯に、通学路に隊員1日当たり18名、危険箇所6カ所に立ち、子供の見守り活動、あいさつ運動を行っ

ています。交差点、横断歩道等で指導し、時には青パトで町内を巡視します。

平成24年4月～5月にかけて、静岡県内では茶畑で電線盗難事件が多発しました。5つの市で被害32件、島田市では8件でした。その際は、夜間のパトロール活動範囲を拡大し、茶畑周辺を重点的に警戒しました。写真は、茶畑を巡回している様子です。



次に、東海沖地震発生を想定した自主防災組織との連携活動について紹介します。井口地区は海岸線から約5キロ、浜岡原発から20キロ圏内にあります。大地震発生時に自治会の自主防災組織を支援する部隊として活躍するため、活動要領を作成しています。井口地区では地震発生時、自宅に異常のない場合は、家庭の外から見える場所に黄色いハンカチを掲示することになっています。当部隊では、災害発生時に黄色いハンカチを確認して、出ていない家は異常がある家として、その家をいち早く発見して、被害者の早期発見、救出手配、要養護者確認、避難所への避難誘導などを行います。自主防災組織と連携して、9月と12月の防災訓練で訓練を重ねています。

また、高齢者世帯の安否確認と犯罪被害防止の声掛け運動も行っています。地区内には、要養護者が27名居住しています。自治会や民生委員と連携して、定期的に高齢者世帯を巡回訪問をして声掛けしています。安否確認とともに、振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺等の犯罪被害防止、交通安全の啓発を行っています。地域のリサイクル活動として、ぱとろーる隊員有志が月2～3回、古紙回収、段ボール回収も実施しています。収益金は活動費に充当し、余剰金は自治会や子供会、祭りの資金に援助しています。

パトロール活動には機動力が重要で、常に車両を確保し、整備状態を確認していなければなりません。そのために、島田署管内防犯協会主催の車両整備講習会には大勢参加しています。また年1回、隊の総会を開催しています。毎月、原則的には15日の夜間ですが、定例会を開いて翌月の活動内容の計画、警察から提供を受けた

黄色いハンカチの掲出

自宅に異常ない場合は、各戸の外から見える場所に「黄色いハンカチ」を掲出する。

↓

災害発生時に「黄色いハンカチ」を確認する。

↓

掲出されていない家は異常がある家

↓

①いち早く被災者の発見
②救出手配と救出
③要養護者の確認
④避難所への避難誘導



独居高齢者世帯への安否確認と犯罪防止

地区内には、75歳以上の高齢者が125名(うち要養護者27名)居住。

↓

自治会や民生委員と連携して、定期的に高齢者世帯を巡回、訪問をして声掛け。

↓

安否確認を行うとともに、振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺等の犯罪被害防止、交通安全の啓発。



古紙回収によるリサイクル活動

ぱとろーる隊員有志(リサイクル奉仕会)により、月2～3回古紙回収、ダンボール回収を実施。

↓

収益金を活動費に充当し、余剰金は自治会及び子供会に資金援助。



車両整備講習会

ぱとろーる活動には機動力が大きくなる。

↓

常に、青ハト車両の点検整備

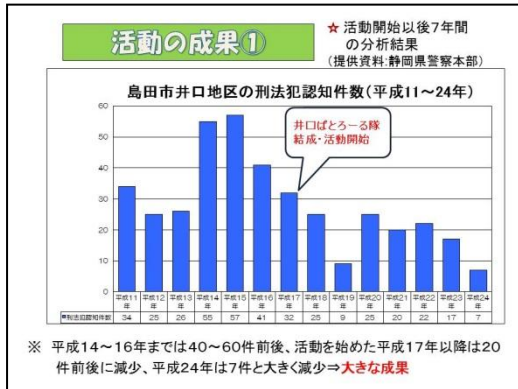
↓

島田警察署管内防犯協会主催の車両整備講習会へ大勢参加



犯罪情勢の説明等を話し合います。講師を招き、講演会による隊員の研さんも重ねています。

活動の効果と今後の課題



ぱとろーる隊の活動開始から7年経過しました。静岡県警察本部提供の資料によりますと、井口地区の刑法犯認知件数は、平成14年~16年、40~60件で推移していたのが、活動を始めた平成17年以降は20件前後、平成24年は7件と大きく減少しています。このように大きな成果となって表れていることを確認し、ぱとろーる隊の活動が自信となって井口自治会が活性化されてきました。

また、これまでの活動が評価され、静岡県防犯協会連合会および島田警察署管内防犯協会から表彰を受けました。その他、多くの団体からも表彰を受けております。また、趣旨に賛同して活動費用を支援していただく企業、商店が徐々に増えてきております。

今後の課題ですが、まず隊員の拡大と次世代への継承です。隊員が高年齢であり、若年層の隊員の拡大、勧誘を推進していかなければなりません。そのためには、井口ぱとろーる隊をさらに魅力ある活動隊に発展させる必要があると考えております。

2番目の課題は、難題である巨大地震発生時の井口ぱとろーる隊としての役割を確認する

今後の課題 ①

課題1: 隊員の拡大と次世代への継承について

- ◇ 隊員の年齢構成が高年齢であり、若年層の隊員の拡大加入を推進します。
- ◇ 明るい住みよいまちづくりの活動を次世代に継承していく必要があります。

↓

そこで、井口ぱとろーる隊を、更に、魅力ある活動隊に発展させる必要があると考えています。

必要があるということです。井口地区としては、南の吉田町方面からの避難者の対策があります。また東名高速道路からの避難自動車の対策も必要です。的確な判断の下に、地域の住民と流入者の対応ができるのか。自治会の自主防災組織と連携を取りながら、住民の安心・安全を確保する必要があります。当地区は隣接する吉田町とも話し合い、防災対策を講じていきます。

今後の課題 ②

課題2. 南海トラフ巨大地震発生時における井口ぱとろーる隊としての役割を確認する必要があります。

(1)人の津波(避難者)の対策
(2)東名高速道路からの避難自動車の対策

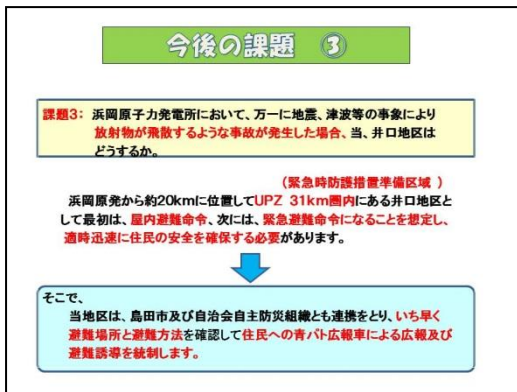
を適時適確な判断のもと住民と流入者との処理対応を行なうことができるか?

自治会の自主防災委員会組織と連携を図りながら住民の安心、安全を確保する必要があります。

↓

そこで、当地区は、島田市と吉田町との行政境であるため、隣接する吉田町とも話し合い相互に情報交換をして、防災対策を講じて行きます。

また、浜岡原発において、万が一地震・津波等の事象により、放射性物質が飛散するような事故が発生した場合の対応も難題です。浜岡原発が約20キロに位置して、UPZ31キロ圏内にある井口地区としては、最初はず、屋内避難命令、次には緊急避難命令になることを想定し、迅速に住民の安全を確保する必要があると



考えます。当地区は島田市自治会自主防災組織と連携を取り、いち早く、避難場所と避難方法を確認して、住民への青パト広報車による広報および避難誘導をしなければならないと考えております。

このような課題を念頭に、この素晴らしい地域の安全と安心を自分たちで守るため、地道に活動を続けていかなければならないと考えています。ご清聴、ありがとうございました。

質疑応答

- 質問 電線盗難の話がありました。ぱとろー隊としてこの犯罪を防ぐために具体的な目標を立てて活動をしたことは隊全体の活動に影響を与えましたか？
- 回答 具体的に活動するということは、全車両が焦点を絞って集中的に活動できるということです。目標がはっきりすれば活動にも効果があるということを理解しました。